

緑かまど



山形一中だより 第106号

令和5年8月23日
発行 山形市立第一中学校

二期が始まりました ～始業式 校長式辞より～

25日間の夏休みが終わり、本日から2学期が始まりました。1学期終業式で「自分を大切にす
る」夏休みを送ってほしいと話しましたが、いかがだったでしょうか。今のところ、大きな事故や
怪我の報告を聞いていないので、まずはホッとしているところです。

さて、夏休み中も、皆さんの頑張る様子を見たり聞いたりしました。東北中学校総体17年ぶり
に出場した女子バスケットボール部、2年連続で出場した男子ソフトテニスの遠藤悠輝・渡辺秀哉ペ
アは、どちらも大接戦のうえ惜敗したと聞いております。これまでの練習・努力を心から讃えます。
その他にも、将棋や水球、硬式テニス、ダンスなど、外部で活動している生徒の頑張りも私の耳に入
ってきました。

暑期中、毎朝グラウンドを走る駅伝チームの皆さんのひたむきな
姿に、こちらにも元気をいただきました。また、ラグビー部は、今年
も花笠まつりに参加し、大いに盛り上げてくれました。新聞にも載
っていましたが、沿道の多くの観客から拍手喝采を浴びていま
した。その日は、一中生や、昨年度の卒業生、30年以上前の一中の
卒業生、などいろいろな方々から声をかけられました。それぞれのその人懐っこい挨拶に、私はと
ても感激しました。ラグビー部が引き合わせてくれたご縁に感謝です。そのラグビー部は今週末に
秋田県で開催される東北大会を控えています。こちらの活躍も期待したいと思います。



さて、2学期は今日から、雪のちらつく12月までと、とても長い学期になります。「実りの秋」
というように、これまでがんばって来たことや、これから努力することの成果が、最も目に見えて
表れやすい季節となります。そこで、私から皆さんに2学期に大切にしたいこととお話ししま
す。FF体育祭やFF合唱コンクールは「みんなで」取り組む行事です。同じ学級・学年の仲間や、先
輩・後輩と助け合うことを通して、山形一中の集団としての力・団結力が高まっていくことを期待
します。

3年生が、7月のいのちの講話で聞いた話で、私が印象に残った言葉を紹介します。社会で大切な
ことは「友達づくりより仲間づくりにこそ意義がある」そしてその「仲間づくり」のためには物事を
一緒にやるのが一番ということです。確かに、社会人になったとき周囲が皆友達ということは
考えられません。周囲の人たちが皆バラバラではなく同じ目標をもって一人一人役割を果たすよ
うな集団、それが仲間です。2学期に行われる体育祭や合唱コンクールを通して、ぜひ仲間づくりを経
験してほしいと願います。人それぞれ考え方は違いますから、全員の意見が一致することはないと
思いますが、目標に向かって一人一人が何ができるか何をしなければならないか、話し合いを重ね
て欲しいのです。自分とは違う考えに腹を立てたり無視したりするのではなく、そういう考え方
あるのかと理解しようとする、それが皆さんの人生にとってとても大切な勉強になるはず
です。

この2学期は生徒会が3年生から2年生へ引き継がれる学期でもあります。3年生は1年間の集
大成を、2年生にはこの一中をリードする覚悟を期待します。いずれにしても当然みんなの仲間
の一員としての協力が必要になります。

「仲間」これをキーワードに2学期は頑張してほしいと思います。皆さんの活躍、成長を願って、
始業式の挨拶とします。